

## 保育計画成果報告書

法人名	学校法人 三春学園
施設名	認定こども園 三春幼保園 光の子保育園
報告者	本田信子 (園長)
住所・連絡先	福島県田村郡三春町貝山字岩田 100
	☎ 0247-62-2548
	E-mail miharuko@educet.plala.jp

○タイトル (保育計画)

テラスからもすてきな生活をルンルン

○主な助成品

おひさまと遊ぶサンルーム建設費用

### 1. 実施した保育計画策定の目的

原発から4年、多くの方々からの暖かな支援に対して深く感謝申し上げます。  
今、こうして保育や子育てが出来る事、とても幸せです。嬉しいです。

当園は、地域の人々の要望によって、幼稚園の空き教室を活用し保育園を開設しました。地域の方々に喜ばれ、園児数も増え、兄弟で在籍する家庭も増えてきました。様々な風評被害はありますが、この福島で若い保護者達は一生懸命子育てしています。子ども達も元気にすくすく育っています。除染し線量も低くなり、保護者も外遊びにGOサインを出して下さり、外遊びも楽しむようになりました。しかし、飲み水や飲み物、食品には配慮されている家庭はあります。ですが、少しずつですが生活は戻りつつあります。完全ではありませんが、皆、前向きに生活しています。

保育室の前には横28.2m×幅2.35mの長いテラス(保育室を繋ぐ半屋外)があります。床は理事長手作りの“すのこ”がひいてあり、カタコト、音がして楽しい場所です。出入り口のみ使用になっているこの空間を有効活用できないだろうか、と長い間考えてきました。

抱っこだったお子さんが自分の足で歩きはじめ、よちよち歩きから走れるようになり、一人の世界から側にいるお友達に興味、関わりをもてるように生活にも変化が出てくるのだから、もっと工夫してあげたいと、園舎が改築されてからずっと考えていました。

保育室の目の前のガラス戸からは、風に揺らぐ草花、緑の葉を広げる樹木、様々な実をつける沢山の木々、空をとぶ虫や鳥、足元にはありんこの行列、外遊びを楽しむ幼稚園児の姿。それに誘われるようになんのためらいも気兼ねなく出歩いてしまう子ども達。近くには花壇を囲む大きな石やセメントの小道。「待って!」「危ないから先生と一緒にいこうね」。まだ足元のおぼつかない0~2歳児の子ども達の安全を考えると興味や関心にストップをかけざるをえない切なさ。

ここが外の自然を肌で感じながら安全に遊び、生活できる環境として活用できないだろ

うか、風や雨、雪までも凌げる、東北大震災に伴う放射能からも子ども達を守り、のびのびと遊べる空間にし、子ども達の生活を豊かに支えてあげられたらどんなに良いだろうと  
考え、テラス全体をサンルームにする計画を立てました。



・外から見たテラス、横幅は 28m



・内は理事長手作りの“すのこ”が敷かれる

## 2. 具体的な実施内容

この空間をどう活用しようか？

設計の時から砂場は絶対必要！それも据え置きでいつでも使えるように！天候に左右されず風を感じながら思い切り遊べるようにと、既存のテラスから飛び出すように砂場コーナーを設置しました。いよいよ砂場開始！楽しいですよ！言葉少なく黙々と遊び、片つけの際には大泣きでした。なんと砂場デビューのお子さんがいた事を家庭からの連絡帳により知り、子ども達の年齢的発達や家庭の子育ての状況や外遊びに関する状況を知ることができました。砂遊びの重要性はよく知られているかと思っていたのですが…。園生活の中で位置付けしなければと、職員で話し合いました。



次に、大人側の考えは沢山ありました。でもその前に子供観察をしました。

出てきたのは「よーいどん！」です。歩くことの楽しい発達段階の子ども達ですものね。そして、先生との追いかっこが始まりました。「お部屋に集まるよ！」と言っても楽しいのでなかなか入室してくれません。追いかっこも含め、マットレスやスポンジのアスレチック遊具を活用しての体力作りなど工夫が始まりました。保育室とは違い障害物もなく、長い距離を走ったりゴロンゴロンと転げまわることもできます。健康な体作りは勿論ですが、体を動かせる、動かす事が楽しくなってきた子ども達の笑い声にあふれていました。

「おいで～気持ちいいよ～」と声をかけながらおもちゃの移動。きょうは、ままごとコーナーがサンルームでお店屋さんに変身です。「いらっしやいませ！」「どうぞ」いろんな言葉が行き交う中、「風さんが買い物に来たのかな？」「鳥さんにもごちそうあげようよ」そんな言葉も聞かれ、その言葉の先のかわいい子について微笑んでしまいました。外の草花を摘み、素敵なおちそうもたくさんできます。

カーペットをひいてブロック遊び。いつもなら子ども達の視線は保育室の壁やテーブル

など。でも今日は、子どもの視線、指さしの先に目を向けると大きな木が。「大きな木だね。高く積んでみようか」と見えている身近な物へと関心を深めたり、本物にふれたり、愛着をもったりと、子どもの心に寄り添いながら遊びを膨らませてゆくことができます。

そうそう、シャボン玉あそびでは風にいたずらされることなく、じっくり、ゆっくり楽しむ事ができました。パチン!と割れることが少ないので、不思議な色を間近かで見たりずっと追いかけたり、割れる様子をじっくり見たり、そして、すうーっと入る風にふわりと動く様子を見たり、いろんな発見をし、外で行うシャボン玉とは違ったひと時です。

カーペットの上での読み聞かせの時は、暖かな陽だまりの中、絵本の世界と目の前の世界が重なり合うことが多々ありました。中でも秋の紅葉時の「まほうのえのぐ」、冬の時期の「おおさむこさむ」などは、言葉にしなくても伝わる時間でした。

大人気は理事長先生の手作りの“すのこ”。トントン、カタカタ、がたんがたん。足を動かす具合、力の入れ方により音が違うのです。足元の感触を確かめながら、音楽をかけてのダンスタイム。手をたたいたり、ターンしたり、楽しさあまって、よだれもポタポタ。

手作りの大型の段ボールハウス、大型冷蔵庫の空箱のトンネル遊び。トンネルではくぐるだけでなく中に寝転び、窓に見立てた穴から足を出し、つかんだりして、もぐらたたきのような遊びも子ども達が作りだしたのにはびっくりしました。



・テラスでのシャボン玉あそび



・足元の“すのこ”はトントン、カタカタ



・テラス内には水槽も設置



・大型段ボールハウス

### 3. その成果と評価

180度パノラマ、外が見えるサンルーム。

朝からの光でほんわか暖かい、気持ちがいい。窓越しからは 幼稚園児が大型遊具で遊んだり、砂場であそんだりと生活のお手本になっています。そんな姿をみて大きくなる子

ども達。雨、風の日、雪など寒さや不便を感じることなく遊ぶことができる快適さ。保育室とは違い自然をすぐそこに、身近に感じる生活、「まって！」とストップをかけずに安心して見守る事の出来る生活。

日常的に、お昼寝、おやつタイムに、ランチタイムに、遊び場に、体力作りに、ダンス大会？に、と保育の場をかえて設定することにより生活はぐーんと広がり膨らみました。

子ども達の生活は豊かになり、保護者からも大変喜ばれています。夕方のお迎え時、園内に一步入って第一声、「先生！あったかいね！ほっとするね！」「元気な子どもの姿が遠くからでも見えて安心しますね」という言葉。また、学園祭バザーや子ども夏祭りではお母さん達のお店屋さんコーナーに活用され、来園者の混雑が緩和されスムーズな運営ができました。暖かな中参観したり、各行事や活動時には荷物を置いたり、いつでも安全に快適に活用されています。

サンルーム完成後のある日、「あれ？網戸は？えっ網戸のレールがないぞ…」。あわてて業者に連絡。入った網戸に喜んだ子ども達、感触を楽しんでいるうちになんと網戸がゆるみ出し、続いて子どもの視界を遮らないように棧を入れる工事。どちらも生活の中のハプニング。今思えば笑い話なのですが 安全面への配慮、確認不足を反省しています。



・サンルームでランチタイムとおやつタイム

#### 4. 今後の課題と展望

大人としての希望や考えはたくさんありました。やっと思いが叶ったのですから。

0歳児～大人まで楽しむ図書コーナー、土曜日に親子で来園し絵本を楽しんだり、貸し出して家庭に持ち帰り読んだり。また、夕方 お迎えの保護者との語らいのティーコーナー。一杯の暖かな飲み物を口にしながらお子さんのことを話したり、ちょっと愚痴を聞いたりしてコミュニケーションを深めたり…。

しかし、子ども側にすれば のびのび動ける空間にそれらは障害物であったり、死角になってしまったり。そんな子ども側の視点から、固定するという考え方よりも、その時々子どもや保育士の気持ちや行動から自由に環境構成できるようにしようという考えに変わりました。0～2歳児の発達をとらえ、成長を助長できるよう、気持ちがいい、楽しい、嬉しい、もっとやってみたい！そんな快の情緒を膨らませられるよう、与えられた素敵な環境を最大限生かしながら、生活を組み立ててゆきたいと思います。

以上